



和解の福音を届ける“手紙”

IIコリント 5-11~21 (要旨)

説教者 原田憲夫

現在の状況を踏まえ、「キリストの手紙」としての私たちの役目について思い巡らしています。今日の「鍵の言葉=キーワード」「和解する」という言葉は、日本語では「仲直りする」とほぼ同じ意味で使われますね。聖書ではもう少しつつこんで「正しい関係/本来のあるべき関係を回復する」という意味で使われます。

【1】 和解を必要とする私たちの悲慘な現実

神によって造られた「はじめの人」は、神との「正しい関係」にあり、神との平和の世界—エデンの園で神の栄光をほめたたえていました。

ところが、「はじめの人」は造り主-神に背き、神との約束を破りました。その結果、「全ての人」に死が入り、永遠の滅びを招いたのです。

以来、人は生まれながらにして罪を宿し(「原罪」)、神の創造された美しい世界はうめき苦しみ、人は互いに争いを繰り返しています。

実際、私たち人間の心は陰険で、かたくなで素直に自分の過ちや間違いを認めようとしません。それどころか他人の所為(せい)にします。

自己愛は「自己中心の極み」です(「番町皿屋敷」)。

この結果、人は神様の怒りの下にあるのです。

⇒ローマ1・18, コサ1 3・5-6 参照

▶まず私たちはこの私たちの悲慘な現実をしっかり目を向け、認めなければなりません。

【2】 神が用意された和解の道

この私たち人間の悲慘な現実を「変える」ために、神は「キリストによって/キリストにあって」「和解の道」を用意されました。⇒IIコリント 5・19,20

つまり、神は、キリスト(十字架の血)によってご自身に敵対する私たち人間に対し、神ご自身の怒りから救い出す、「和解の道」を備えてくださったのです。⇒コサ1 1・19-20, ロマ5・9-11 人の自己愛に対し、神の犠牲愛です!

神との和解は、自己愛から神への信仰愛、隣人への愛、自然万物への希望を芽生えます。

▶私たちがキリストによる神の和解の勧めを受け入れるとき、神との交わりが健全に回復し、神の愛と永遠のいのちがキリストを信じる者の内に流れてきます。

永遠の救いの完成;「新しい天と新しい地の創造」(イザヤ65・17)、「新しい天と新しい地、新しいエルサレム」(黙示21・1-2)。

私たちは人類の滅びという危機の中から脱

出し、この永遠の救いの完成を待ち望むことができるのです。

【3】 あなたは“和解の福音を届ける使節”—キリストの手紙!

私たちが神との和解の勧めを受け入れることで十分に思えますが、パウロのメッセージはそれで終わりません。

注目すべき言葉;「和解の務め」(18),「和解のことばを私たちに委ねられた」(19),「私たちはキリストに代わる使節なのです」(20)

そうです。私たち—あなたと私、そして教会はパウロ同様、「和解のことばを委ねられている」のです。「キリストの代理としての使節」として、この時代にこの世界に遣わされているのです。

▶では今、私たちは、和解の務めを委ねられていること、すなわち主の思いをしっかり受け止めているのでしょうか?(苦手、恐れ・・・)

e.g.「サーカス」—「ライオンが火のついたリングをくぐり抜ける」という演目。獣と火の関係は、本能的に敵対する関係だが・・・訓練の結果か、いや違う・・・

それはたった一つ、ライオンの主人に対する信頼だという。ライオンは火に向かう前に必ず主人の目を見るという。それからご主人を見て飛び込む・・・

▷信頼関係!

信仰の創始者であり完成者であるイエス・キリストに信頼する!

そのとき臆病な私に、あなたに助け主(聖霊)から勇気が与えられ、「和解の福音を届ける“手紙”として主が用いてくださるのです!

(祈り) 主よ、あなたの代理としてあなたの救いを必要としている方々のところへ、また私が苦手としている方々のところへ、あなたの和解の使節として私をお遣わしてください! アーメン

